



カブニくんと家族

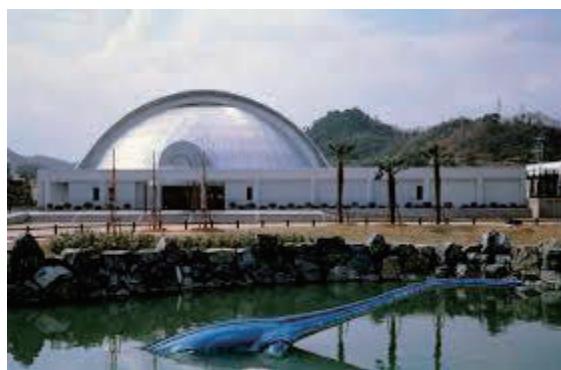


カブトガニ博物館マスコットキャラクター  
カブニくん

がんばれ カブトガニ

カブニくんは、笠岡市にあるカブトガニ博物館のマスコットキャラクターです。カブトガニのまんじゅうや、せんべいなどのおみやげもでき、今では、「笠岡といえばカブトガニ」と言われるほどの人気もののカブトガニ。そんなカブトガニが、笠岡の海から一ぴきもいなくなるかもしれないと思配されたときがあつたのです。

昭和三十年代まで、笠岡の海にはたくさんのカブトガニがすんでいました。そのころ、カブトガニは、あみをやぶる海のギャングとしてじやまものあつかいされていました。カブトガニをたすけようものなら、悪口を言われたり、わらわれたりしたのです。しだいに、カブトガニの数はへつていきました。



笠岡市立カブトガニ博物館





カブトガニ



カブトガニのたまご

さらに、昭和四十年代に入ると笠岡湾の干拓が行われ、カブトガニのすみかがうばわれ、見る見るうちにカブトガニの数はへつていったのです。このようすを知った笠岡市の中学校の先生や生徒たちは、「このままでは、カブトガニのすむ場所がなくなり、一匹もいなくなってしまう。なんとかしなくては…。」  
「ぼくたちが、カブトガニをたすけよう。」  
と、『ほー少年団』をつくり、いっしょにけんめいにカブトガニをまもるうんどうをはじめました。

カブトガニは、あつい夏の星のきらめく真夜中にだけ、しずまりかえった海の沖合から、オスとメスでいきをひそめるようにはまへやってきます。そして、たまごをうみ、ぶじにうめたことを見どけると、つかれた体を引きずるようにして海へ帰っていくのです。たまごの大きさはすなつぶくらいで、しんじゅのよううつくしく、そのかがやきは、地球のれきしをそつと教えてくれているようです。

笠岡湾にしめきりていぼうができると、少年団の人

だん

たちは、カブトガニのたまごや親を、近くの海へ引っ  
こしきさせました。たまごはつぶれやすいので、くぼみ  
よりはなれたところから少しづつすなをくずし、たか  
らもののようにしんちょうにほっていきました。この  
一つぶに、二億おく年ものいのちがうけつがれているのか  
と思うと、むねがジーンとしてきます。



活動する保護少年団

朝、くらいうちからはまべへ出かけて、魚のえさに  
なるゴカイや貝をほりに来た人たちに、たまごをあら  
さないようになんて回りました。広いすなはまのこ  
とですから、たいへんなしごとでした。一ぴきのカブトガニものこさないようにな  
みんな体中どろんこになつて、たまごや親をひつしきがし回りました。

この少年団のかつどうに心をうたれ、カブトガニの大切さを知った人たちは、それ  
ぞれの地域いきでカブトガニをまもるかつどうをはじめました。そして、そのかつどうの  
輪はどんどん大きくなつて全国に広がりました。

その後、笠岡市には、「カブトガニセンター」ができ、平成二年には、「カブトガニ博物館」となりました。「カブトガニ博物館」では、たまごをかえらせたり、プロールでカブトガニをそだてたりして笠岡の海にはなしています。また、下水道の整備をしたり、海水をきれいにする船を出したりして、海をきれいにするかつどうも行われました。さらに、海草を海にそだてて、魚やカブトガニがすみやすい海にする努力も行われました。そのおかげで、笠岡の海で生きるカブトガニは年々ふえてきています。

少年団<sup>だん</sup>や多くの人々のねがいをうけつぎ、今では、カブトガニをまもるためのイベン<sup>ト</sup>がひらかれたり、カブトガニがすむ海のごみひろいをしたりするなどのかつどうが行われ、県外<sup>けんがい</sup>からも多くの人がさんかしています。

カブトガニが安心してすめるうつくしい海をのこそようと、かつどうの輪<sup>わ</sup>が、ますます広がつてきているのです。

※干拓<sup>かんたく</sup>：あきい海やひがたをしきり、水をぬきとつたり、ひ上がりせたりして、陸地<sup>りく</sup>にすること。

※教材中の写真は、笠岡市立カブトガニ博物館提供

## 1 主題名 自然や動植物を大切にしよう

### 2 主題設定の理由

#### (1) 内容項目について

中心とする内容項目は、D 自然愛護「自然のすばらしさや不思議を感じ取り、自然や動植物を大切にすること。」である。人間は自然の中で動物や植物とともに生きている。人間と動植物が共存していくことが自然の摂理である。しかし、最近では、自然の破壊がどんどん進み、その結果、動植物が滅び、ひいてはそれが人類存続の危機につながりつつある。

自然の厳しさに耐え乗り越えながら生き続ける生き物の姿から、生きているものの美しさと尊さに気付かせていくことが大切である。そして、この自然の中で共に生きているものとして進んで手を差し伸べ、命あるものを育もうとする態度を育てていかなければならない。

#### (2) 児童の実態について

児童は、美しい草花やかわいい小動物が大好きである。実際、草花を育てたり、虫や魚や小鳥などを飼ったりしているし、世話を熱心にしている。しかし、その様子を見ると、忙しかったり、他に興味が移ったりすると、水をやるのを忘れて枯らしてしまったり、えさやりや水換えを忘れて死なせてしまったりすることもある。児童は小鳥がかわいいから餌をやり、花が好きだから水をやっているのである。自分の感情を中心にして生き物に接している児童に、生きているものの姿を認識させ、その尊さに気付かせたい。

#### (3) 教材について

本教材は、笠岡市のカブトガニ保護少年団が中心となり、カブトガニを守った話である。干拓によって多くのカブトガニが住み処を失い、その数がどんどん減っていく様子から、笠岡の海からカブトガニがいなくなることを心配した地元の中学校の先生や生徒により、カブトガニ保護少年団が結成され、保護活動が始まった。その活動は、徐々に周りの人たちの理解を得て、カブトガニを守る運動の輪は広がっていった。カブトガニを守ろうとする人々のカブトガニに対する深い愛情と、環境保全の大切さに気付かせ、自分たちも進んで生き物を大切に育んでいこうとする態度を育てていきたい。

### ◇板書例

○自ぜんの生き물을まもるために自分にできることを考え、取り組んだために自分にできる気もちが大切。	◇自ぜんの生き물을まもるために自分にできることを考え、取り組んでいこうとにできる気もちが大切。	ぜん国に広がつたとき	… カがんばつてよかつたからも笠岡の海で生	… 二おく年もいのちがうけつがれたなん	… 一ぼくたちの手でかなづまもる。	… ひんだけどがんばる。	… ひんだけどがんばる。	引っこしをさせたとき	数がへつてているのを知つて	がんばれカブトガニ	自めあてんの生き물을まもるために大切な気もちを考えよう。
											虫ガカニブ成ト 卵 少保年護団

### ◇参考

土屋圭示著「どんがめの海」誠文堂新光社  
笠岡市公式ホームページ カブトガニ博物館

### 3 ねらい

自然の生き物を守るために大切な気持ちを考える中で、自然の生き物を守るために、自分にできることを考え、取り組もうとする気持ちの大切さに気付き、自分にできることを進んで取り組んでいこうとする心情を育てる。

### 4 展開

○は基本発問 ○は中心発問

学習活動	主な発問と児童の心の動き	指導上の留意点
1 カブトガニについて話し合い、めあてをつかむ。	<p>○ カブトガニを知っていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二億年も変わらず生きているなんてすごい。</li> <li>・岡山県の笠岡市にいたんだな。すごい。</li> <li>・いなくなるのはかわいそう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自ぜんの生きものをまもるために大切な気もちを考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を見せながらカブトガニの生態を知らせ、関心を高める。</li> <li>・カブトガニがいなくなってしまう危機を救った人たちがいたことを話題にし、めあてをもちやすくする。</li> </ul>
2 「がんばれカブトガニ」を読んで話し合う。	<p>○ カブトガニが減っていることを知った中学生や先生はどんなことを思ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なんとかして守りたい。守らなければ。</li> </ul> <p>○ 保護少年団の人たちはどんな気持ちでカブトガニを引越しさせたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この卵で二億年もの間カブトガニの命が受け継がれたなんてすごいな。</li> <li>・かけがえのない生き物だからぼくたちの手で必ず守りたい。</li> <li>・大切な命だから、一粒でも見逃さずに助けたい。</li> </ul> <p>○ カブトガニを守る活動が全国に広がり、数も増え、保護少年団の人たちはどう思っているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんばって活動してよかったです。</li> <li>・これからも笠岡の海で生き続けてほしい。みんなで大切に守りたい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自ぜんの生きものをまもるために自分にできることを考え取り組んでいこうとする気もちが大切だな。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・このままだとどうなるか問い合わせ、自分たちが守るという中学生や先生の気持ちに共感できるようにする。</li> <li>・砂浜の卵の写真を見せ、「どうしてそんなに苦労してまでカブトガニを守ろうとしたのか。」と問い合わせ、グループで話し合うことで、カブトガニがかけがえのない生き物であり、できる限りのことをして守りたいという気持ちに気付けるようにする。</li> <li>・活動の輪が広がり、喜びを感じている保護少年団の人の気持ちに共感するとともに、現在も人々に願いが受け継がれていることから、自分も自然の生き物を大切にしようとする心情を深めることができるようする。</li> </ul>
3 自然の生き物とのかかわりについて振り返る。	<p>○ 自然の生き物を守るために、自分にできることを考えたり、守る活動をしたりしたことがありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホタルの里の話を聞いて川を汚さないようにしたいと思った。</li> <li>・ヤゴが住める環境を守るために自分も水を大切に使っているよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然に関わった活動の写真等をもとに自然の生き物を守りたいなと思ったことを想起し、そのときしたことやしたいと思ったことについて振り返ることができるようする。</li> </ul>
4 教師の話を聞く。	<p>○ 先生の話を聞きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先生も自然を守る活動をしています。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">自分にできることを考え自ぜんの生きものを大切にしたり、まもる活動に参加したりしていきたいな。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師が体験を話すことにより、実践しようとする意欲を高める。</li> </ul>
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然の生き物を守るために自分にできることを考え取り組もうとする気持ちの大切さに気付くことができたか。</li> <li>・自然の生き物を守ることについて自分にできることを考え進んで取り組んでいこうとする意欲を高めることができたか。</li> </ul>	

### 5 他教科等との関連

総合的な学習の時間や理科の時間等の学習の際、自然のすばらしさや、不思議さ、美しさ、かけがえのなさを感じ取ることができるような栽培活動、飼育活動等を行い、実感がもてるようにする。